

## 7 内陸部（山地・丘陵地域）

福岡市の南側，東側の市域界を形づくる標高の高い地域で，自然性の高い樹林地が存在する地域です。立花山周辺，油山周辺，脊振山地，叶岳，高祖山，飯盛山周辺などに特徴づけられます。

自然性の高いまとまった規模の樹林は生物の重要な生息・生育環境となっているほか，市域の水源涵養林として重要な役割を担っています。また傾斜がきつく土壌の流出，土地の崩壊を引き起こしやすい地形であることから，樹木の伐採，土地の造成は最小限にとどめる必要があります。

これらの地域ではキャンプ場や市民の森など森林資源を活かしたレクリエーション活動もさかんです。工事用車両の走行ルートを検討など，活動の妨げにならない配慮も必要です。

### 《求められる環境の例》

- ・脊振山地，油山などまとまりのある自然性の高い森林が残されている
- ・尾根沿いには登山道があり，アカガシやブナの天然林が残り，貴重な種が見られるほか，優れた自然景観を有している
- ・自然性の高い森林が，ニホンイノシシやキツネなどの中・大型哺乳類を始め，ヤマネやノウサギなど多様な生物の生息生育場所となっており，定期的なモニタリングなどにより，特定の種の増加や外来種の侵入を監視し，適切な対応がとられている
- ・施業が行われなくなった二次林は，自然の遷移にゆだねて自然林に移行され，竹林の拡大やササ類の繁茂など天然更新が困難な一部の地域では，市民，事業者，NPO などの協力によって適正な維持管理が行われ，自然の遷移を助けている
- ・市街地近傍の豊かな自然環境は，多くの市民がハイキングなどの野外レクリエーションや環境学習の場として，また，市外からも都市近郊型エコツアーの場として，自然環境保全とのバランスを図りながら適正に利用されている
- ・水源涵養林として用地取得，間伐・造林などの整備による水源涵養機能の向上がみられる


※「生物多様性ふくおか戦略」より抜粋



写真 内陸部（山地・丘陵地域）

### 内陸部(山地・丘陵地域)の環境配慮の要点

環境配慮の対象とする環境要素	環境配慮の要点
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	市内河川の源流として重要な地域です。水源涵養力の低下、濁りや水質汚濁などの公害を発生させないよう努めてください。
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	自然性の高い樹林地の存在する山地・丘陵地域では、市街地や公園には見られない種が生息します。これらの種の保全のために、連続する大面積の樹林地やモザイク状に入り組んだ多様な植生の確保を検討してください。
人と自然との豊かな触れ合いの確保	遊歩道、キャンプ場、市民の森など、森林資源を活かした施設が整備されています。これら施設の利用やアクセスを妨げないよう配慮してください。
環境への負荷の低減	廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用のほか、再生可能エネルギーの利用、省エネルギー施設・燃料電池・雨水利用施設の導入等を検討してください。

地域特性	
●自然的条件	
地形等	主に東区、南区、城南区、早良区、西区に分布する。 主として花崗岩を基岩とするが、三日月山、脊振主稜付近は結晶片岩によって構成されている。野河内溪谷には石灰岩が分布している。
植生	標高の低い丘陵地、低山地には、スギ・ヒノキ植林の他、シイ・カシ林が混在する。標高約700m以上にはアカガシ林、シデ林など自然性の高い樹林地が分布している。 重要な植物群落として、分布の局限される脊振主稜部のブナ・ミズナラ林、立花山のクスノキ林などがある。
生物多様性	<p>内陸部（山地・丘陵地域）を特徴づける貴重・希少生物は、「自然性の高い樹林地」に生息・生育することが多い。</p> <p>&lt;内陸部（山地・丘陵地域）を特徴づける貴重・希少生物&gt;</p> <p>哺乳類：ニホンカワネズミ</p> <p>鳥類：オシドリ、アカショウビン</p> <p>両生類：ブチサンショウウオ</p> <p>昆虫類：キリシマミドリシジミ [脊振山地]</p> <p>貝類：ミヤザキムシオイガイ [立花山]</p> <p>植物：キエビネ、ムラサキセンブリ [油山]</p> <p>まとまった規模を持つ樹林地には、市街地や公園には見られない種が生息・生育する。自然性の高い植生では樹林地の構成種も多様化し、植物に依存する昆虫の種類も多様化する。樹林地の規模の確保、多様な植生の確保が望まれる。</p>
	
	ブチサンショウウオ

●社会的条件	
生活環境	水道水源として長谷ダム、曲淵ダム、脊振ダムなどが利用されているほか、福岡市内河川の源流として重要な地域となっている。
景観・歴史	福岡市の市域界を形成する標高の高い地域であり、市街地の広がる低平地からは、景観形成上重要なランドマーク、スカイラインとして認識されている。 立花山山頂付近の立花城跡、高祖山などの歴史的資産に恵まれている。 立花山と叶岳周辺は玄海国定公園に指定されている。 遊歩道やキャンプ場、市民の森など森林資源を活かした施設が整備されている油山、脊振山、今宿野外活動センターなどは、身近なレクリエーションの場として親しまれている。
その他	「急傾斜地の崩壊危険区域」、「砂防指定地域」、「地すべり防止区域」、「土砂災害特別警戒区域」など法律に基づき指定された地域及びその周辺における土地の扱いには十分注意する必要がある。
環境配慮事項	
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	
水質汚濁などの公害発生の防止	<input type="checkbox"/> 作業に伴う、騒音・振動、排気ガス、粉じんなどの発生・拡散を極力抑える工法を採用する。 <input type="checkbox"/> 資材等運搬車両、作業機械は、騒音・振動、排気ガス、粉じんの発生を極力抑えた運転を行う。 <input type="checkbox"/> 工事は休日を避けるほか、工事車両の走行は一般車両の多い時間帯を避ける。 <input type="checkbox"/> 路面の改良・補修を適宜実施する。 <input type="checkbox"/> コンクリート打設時のアルカリ性排水を中和処理する。 <input type="checkbox"/> 施設などにおいて、最新の環境保全設備の導入を図り、環境汚染物質の排出を抑制する。
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	
生態系への影響の軽減対策	<input type="checkbox"/> 道路を透水性舗装にする。 <input type="checkbox"/> 法面や仮施設跡地、裸地は、表土の吹き付けなどにより在来植生の復元を図る。 <input type="checkbox"/> 施設周辺や壁面、屋上の緑化に努める。 <input type="checkbox"/> 濁りの発生が少ない工法を採用するなど、水質を保全する。 <input type="checkbox"/> 自然地形を活かした施設計画など、地形の改変面積や切土・盛土の土工量を極力少なくする。 <input type="checkbox"/> コンクリート擁壁やブロックの設置によって、土壌、土砂の浸食や流失、堆積を防ぎ、脆弱な地形の崩壊・改変量を極力少なくする。 <input type="checkbox"/> 護岸、岸壁、堤防の設置・補強によって、土壌、土砂の浸食、堆積を防ぐ。
貴重・希少生物等の生息・生育環境の保全	<input type="checkbox"/> 動物の繁殖期及び冬眠時期や渡り鳥の渡来時期、植物開花時期など、配慮対象とする貴重・希少生物の生息・生育条件に影響を与える時期の施工を控える。 <input type="checkbox"/> 周辺緑地や水辺環境との連続性を考慮した緑地整備を行うとともに、植樹のタイプに応じた適切な管理を行い、生物の生息・生育場所としての質の向上を図る。 <input type="checkbox"/> 作業機械による周辺緑地等への立入や踏みつけに注意する。 <input type="checkbox"/> 人工光による影響を軽減するために、灯具の種類、設置数、位置、光色について検討する。 <input type="checkbox"/> 代替地の創造や移植を行う。 <input type="checkbox"/> 生物の生息・生育状況について、供用後のモニタリング調査を実施する。
外来生物対策	<input type="checkbox"/> 公園樹木、緑化植物は、公園の性格・特性にあった在来植物種を選定し、外来種を避ける。

人と自然との豊かな触れ合いの確保	
人と自然との触れ合いを考慮した施設構造の検討	<input type="checkbox"/> 木杭・石組など，自然素材を活用した施設を設置する。 <input type="checkbox"/> 橋脚や護岸，コンクリート施設などの配置やデザインや形状，色彩を工夫する。
環境への負荷の低減	
環境負荷の低減を考慮した計画	<input type="checkbox"/> 施工方法の工夫や破碎，焼却，脱水，乾燥などによって廃棄物の減量化を図る。 <input type="checkbox"/> 不法投棄を防止し，適正処分を徹底する。 <input type="checkbox"/> 解体作業が発生する場合は分別解体に努め，再資源化率の向上を図る。 <input type="checkbox"/> 路床材や舗装骨材，枕木は，極力再生品を調達する。 <input type="checkbox"/> 熱帯木材型枠の使用を削減する。 <input type="checkbox"/> 残土の現場内及び他工事での活用，再資源化などによる再利用を推進する。 <input type="checkbox"/> 工程で発生した廃棄物の再使用，再利用を図る。 <input type="checkbox"/> 雨水利用，中水利用，燃料電池，再生可能エネルギー利用施設の導入など，既存のライフラインに依存しない仕組みを検討する。